

目の検査 定期的に

10月10日の「目の愛護デー」にちなんで「目の健康教室」（徳島県眼科医会、県医師会、徳島新聞社など主催）が4日、徳島市内の県医師会館で開かれた。徳島大学医学部眼科の井上昌幸助教が「わかりやすい緑内障」と題して緑内障の

原因や症状、治療などを詳細に解説。県眼科医会の山根伸太会長は糖尿病の眼合併症について講演し、「糖尿病の人は内科だけでなく眼科も定期的に受診し、早期発見・早期治療に努めてほしい」と呼び掛けた。講演要旨は次の通り。

愛護デー 徳島市で健康教室 2氏講演

自覚少なく徐々に進行

わかりやすい緑内障

徳島大学医学部眼科助教 井上 昌幸氏

緑内障は目の奥の視神経が障害されて視野が狭くなる病気。眼圧が病気の進行に関係している程度に達して徐々に進行する。眼圧とは目の中を流す液体の圧力。初期には自覚されず、病気が進行すると視野が狭くなる。病気が進行すると視野が狭くなる。病気が進行すると視野が狭くなる。

人は普段、両目で補い合っている。一方の目の視野が欠けていても自分では気付かない。初期には自覚されず、病気が進行すると視野が狭くなる。病気が進行すると視野が狭くなる。病気が進行すると視野が狭くなる。



井上昌幸・徳島大学眼科助教

40歳以上の罹患率高く

専門医の診察を受けていた方がよい。病状に応じて視野検査などが行われることがある。残念ながら一度障害された視神経を元に戻す方法はなく、病気の進行速度を遅くすることが治療の目標となる。治療の第一歩は、眼圧を低くコントロールして神経への負担を減らすこと。治療法としては点眼薬、内服薬、手術、レーザー治療などが挙げられる。点眼薬の効果は、房水の量を減らし流れを良くしたりして眼圧を下げることにあつた。点眼薬の治療で大切なことは決められた回数、量をきちんと守ること。自己判断でやめてしまうと、眼圧がコントロールできなくなり、病状が進行する恐れがある。点眼薬が効果的に働いているかどうかは、定期的な点眼薬の点眼回数や眼圧の測定で確認する必要がある。点眼薬はあくまで治療の一環であり、定期的な点眼薬の点眼回数や眼圧の測定で確認する必要がある。点眼薬はあくまで治療の一環であり、定期的な点眼薬の点眼回数や眼圧の測定で確認する必要がある。

献眼登録とアイバンク

アイバンクの主要な業務は、生前に登録された方より、死後眼球を頂き視力回復を目的に角膜移植手術に角膜を提供することです。昭和59年に創設した徳島アイバンクでの献眼登録者数は3,501名、献眼者数1,346名、角膜移植手術1,233例、手術後視覚者1,346名。

最新、献眼登録、角膜提供が減少し、輸入角膜の使用が困難となっていますが、徳島に多くあり、何となく徳島の方のご希望のもとより多くの角膜提供、角膜提供が行われますようお願い申し上げます。2009年8月末現在

お電話でご連絡ください。申込書をお送りします。

（財）徳島アイバンク

〒770-8503 徳島市東区三好1-18-15 徳島大学眼科3号館

088-633-7163

血糖コントロール重要

糖尿病の眼合併症

徳島県眼科医会会長 山根 伸太氏

糖尿病による眼合併症は、高血糖による水晶体の奥の中心から混濁して網膜症の白濁、数日から数週間かけて進行する。網膜症は糖尿病の合併症で、高血糖による水晶体の奥の中心から混濁して網膜症の白濁、数日から数週間かけて進行する。網膜症は糖尿病の合併症で、高血糖による水晶体の奥の中心から混濁して網膜症の白濁、数日から数週間かけて進行する。



山根伸太・徳島県眼科医会会長

早期治療で重症化回避

緑内障は、新生血管緑内障という特殊な緑内障で、糖尿病の合併症で、高血糖による水晶体の奥の中心から混濁して網膜症の白濁、数日から数週間かけて進行する。網膜症は糖尿病の合併症で、高血糖による水晶体の奥の中心から混濁して網膜症の白濁、数日から数週間かけて進行する。網膜症は糖尿病の合併症で、高血糖による水晶体の奥の中心から混濁して網膜症の白濁、数日から数週間かけて進行する。